



平成 28 年 10 月 26 日
実践力養成型インターンシップ
中間報告会開催報告書

徳島大学COCプラス推進本部事務局

平成 28 年 11 月 作成

平成 28 年 10 月 26 日（水）、徳島大学地域創生・国際交流会館 5F フューチャーセンターにて、文部科学省 C O C プラス事業に採択されました、「とくしま元気印イノベーション人材育成プログラム」の一環として施行しております、「実践力養成型インターンシップ」の中間報告会を開催いたしました。

▼イベント概要

1. 主旨・目的

現在、徳島大学 C O C プラス推進本部では、徳島県内大学生の県内就職率向上のため、学生が県内企業・地域と出会うきっかけ作りとして、“実践力養成型インターンシップ”を推進しています。

同年 6 月 2 日（木）に開催しました「実践力養成型インターンシップフェア」では、受入れ候補企業様からインターンシップ希望学生へのプレゼンテーションおよびマッチングを行い、現在、7 つの企業・団体で 35 名の学生がインターンシップに取り組んでいます。

本イベントは、これまでの取り組み状況の振り返りを行い自己評価すると共に、各プロジェクトに取り組む企業・学生間での情報交換を行うことで、ミッション完遂に向けたタスクの洗い出しやプロセスの確認、意志共有を図ることを目的として開催いたしました。

2. 日時

平成 28 年 10 月 26 日（水） 13 : 00～17 : 00

3. 場所

徳島大学地域創生・国際交流会館 5 階 フューチャーセンター

4. 発表者（発表順）

受入れ企業・団体名	受入れ側 発表者	インターン生 発表者
NPO 法人マチトソラ	-	高畑優希/檜村千晶/ 野村雄飛/宮田英和
有限会社榎山農園	専務取締役 榎山直樹	-
一般社団法人 徳島新聞社	-	大住歩/松田春菜
徳島大学地域創生 センター 上勝学舎	客員教授 澤田俊明 上勝町地域おこし協力隊 阿部真哉 上勝町地域おこし協力隊 金子玲大	久保文乃 篠原諒子
大塚テクノ株式会社	人事総務部 長谷川恵理	青山晃奈/納多里奈
株式会社 QLiP	情報責任者 江本大輔	井上拓磨/元田遥
株式会社あわわ	代表取締役社長 岩佐乃介 営業チームメディアプランナー 小山.亜紀	小湊湧二郎

5. 中間報告会 参加者数

カテゴリ	人数
受入れ企業・団体	12名
インターンシップ生	15名
その他企業・団体（観覧）	11名
運営スタッフ	6名
合計	44名

6. 内容

プログラム	時間	担当者	内容
開会	13:00 ～ 13:05	玉真之介 (COCプラス推進本部 推進監)	インターンシップフェア開会挨拶 COCプラス事業について
実践力養成型 インターンシップ 概要説明	13:05 ～ 13:20	川崎克寛 (COCプラス推進本部 コーディネーター)	実践力養成型インターンシップの現状について
受入れ企業・団体 紹介	13:20 ～ 13:35	宮本紀子 (COCプラス推進本部 アソシエイトコーディネーター)	受入れ企業・団体の概要・ プロジェクト概要等の紹介 ※各社持ち時間 10分
受入れ企業・団体 進捗発表①	13:35 ～ 14:15	各受け入れ担当者 + インターン生	①NPO法人マチトソラ ②有限会社檉山農園 ③一般社団法人徳島新聞社 ④徳島大学上勝学舎
(休憩)	14:15 ～ 14:30		
受入れ企業・団体 進捗発表②	14:30 ～ 15:00	各受け入れ担当者 + インターン生	⑤大塚テクノ株式会社 ⑥株式会社QLiP ⑦株式会社あわわ
(休憩)	15:00 ～ 15:15		
ワークショップ①	15:15 ～ 16:00		受入れ担当者とインターン生をシャッフルして インターンシップに関する情報交換
(休憩)	16:00 ～ 16:15		
ワークショップ②	16:15 ～ 16:45		WS①を踏まえ、受入れ先担当者とインターン生で 今後の方針決定・タスク整理、 ゴールの再確認、ミッション達成のプロセスを確認
決意表明	16:45 ～ 17:10	インターン生 受入れ担当者	ミッション完遂に向けての意気込み発表
まとめ アンケート記入	17:10 ～ 17:30	川崎克寛 (COCプラス推進本部 コーディネーター)	まとめ アンケート記入

1. COC+事業説明

平成 27 年 11 月、文部科学省が募集した「地（知）の拠点大学による地方創生推進事業（COC+）」に徳島大学を申請大学として提案していた「とくしま元気印イノベーション人材育成プログラム」が採択されました。

<COC+事業とは>

COC+事業は、大学が地方公共団体や企業等と協働して、学生にとって魅力ある就職先を創出・開拓するとともに、その地域が求める人材を養成するために必要な教育カリキュラムの改革を断行する大学の取組を支援することで、地方創生の中心となる「ひと」の地方への集積を目的としています。

<とくしま元気印イノベーション人材育成プログラムとは>

人口減少、若年層人口の流出、厳しい財政状況などの徳島の課題に対し、徳島で特に雇用創出と就職率向上が期待される 4 分野（次世代技術関連分野、地域医療・福祉関連分野、6 次産業化関連分野、地域づくり・観光・ICT 関連分野）を中心に県内 35 機関が協働体を組織し、取り組みます。

取り組みとしては、徳島大学教育カリキュラム改革、協働事業、雇用創出に向けた事業の 3 本柱を掲げており、これらの取り組みを通し、4 つの能力 2 つの確信（下記図参照）を身につけた人材を育成し、県内就職率の向上を目指します。

<徳島大学教育カリキュラム改革—寺子屋式インターンシップ>

徳島大学教育カリキュラム改革の 1 つとして、寺子屋式インターンシップの開発を行います。寺子屋式インターンシップとは、企業側にはメンターを、大学側にはドンを配置し、相互が密に連絡を取り合いながら事前学習と事後の振り返りを強化した少人数制の実践型インターンシップをさします。



2. 実践力養成型インターンシップとは

本年度、徳島大学では、寺子屋式インターンシップの開発に向けたプロトタイプづくりとして、実践力養成型インターンシップを試行いたします。

<実践力養成型インターンシップの種類>

実践力養成型インターンシップには、下記 5 つのスタイルが挙げられます。(図 1)

今回は、“業務補助型”、“課題協働型”、“事業参画型”の 3 スタイルにて、インターンシッププロジェクトの組成を行いました。プロジェクトの組成においては、企業・団体側が学生を「お客様」としてではなく、共に課題解決に取り組む「期間限定の社員」として捉えた上で、**①企業・団体が抱える課題を解決するためのプロジェクトを組むこと、②企業・団体が描くビジョンを達成するために挑戦したいプロジェクトを組むこと**、を基軸としています。

また、このプロジェクトはインターンシップ受入企業・団体と C O C プラス推進本部が連携しながら、プロジェクト組成ならびにインターンシップ実施から終了後のフォロー、学生支援を行います。(図 2)

	特徴	学生の教育効果	企業のメリット
仕事理解型	1-2週間程度の職場・業務体験が中心。面接とレポートやプレゼンによる報告を実施することが多い。	自己の適性・志向の理解	企業・業界広報
採用直結型	実際に一緒に働いてみてお互いを見極める採用活動の一環。外資系企業や大手ベンチャー企業などで実施。	働くこと・業界の理解	採用マッチング
業務補助型	普通のアルバイトでは経験できないような企業の本業と関わり、昇格は1か月以上の参加が多い。	社会人基礎力	若者を活用した業務の推進
課題協働型	会社と大学を رفتり来たりして課題発見や企業と業に寄り添い、グループワーク形式が多い。	社会人基礎力 学びの密着	若者の発想の活用・社内活性化など
事業参画型	企業の新規事業や実務プロジェクトの一員として業務に携わり、期間が1か月から長いものだと半年間の参加が多い。	社会人基礎力 リーダーシップ	若者を活用した新規事業などの推進

図 1：実践力養成型インターンシップのスタイル

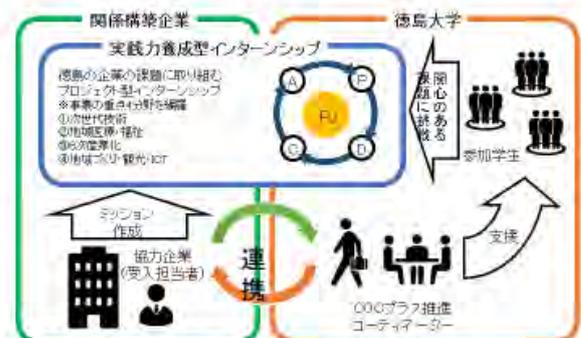


図 2：実践力養成型インターンシップのフロー

<実践力養成型インターンシップの効果（企業側）>

- ① 学生、大学および社会に存在と C S R 実施をアピールでき、企業イメージの向上につながる。
- ② 人材確保の面でも効果が期待できる。(採用直結型インターンシップ)
- ③ 大学との連携が深まり、産学連携の機会が生まれる。
- ④ 社員が学生に教えることで、日常業務を整理・体系化することができる。
- ⑤ 学生の斬新なアイデアが社員を刺激し、職場の活性化につながる。

<実践力養成型インターンシップの効果（学生側）>

- ① 組織や仕事のやり方を学び、自己の適正や職業選択について考える契機が生まれる。
- ② 職場や社会のルールを知ることによって、就職後の適応能力を高めることができる。
- ③ 実際の現場に触れることで自分の欠けていることを自覚し、学習（大学生活）へのモチベーションが高まる。
- ④ 年齢の異なる人々と交流することによって、世代間コミュニケーションを学べる。

<実践力養成型インターンシップ実施フローチャート>

タスク		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
受入れ候補先企業開拓のため、 企業を訪問（18社）	企業訪問									
経営課題の洗い出しを行い、 インターンで実施可能なPJの組成を行なう。	PJ組成									
学内に向けた広報資料の作成と広報活動を行 う。	学内広報									
6月2日（木） インターン受入れ企業様から学生に向けたプレゼ ンテーションの場を設ける。 （本イベント）	インターンシップフェア									
エントリー学生の相談受付。 エントリー学生と企業のマッチング（選考）を行 い、参加の意志確認を行なう。	マッチング									
企業向け・学生向けにインターン事前講習・研修 を実施。 学生向け事前研修は各PJにつき3～5回程度 実施する。	事前研修									
インターン期間中のメンタリングをCOO+スタッフが がメンターとなって実施。 各PJ毎に2～3回実施し、特に対応が必要な 学生に対しては個別対応とする。	インターン シップ 開始	メンタリング								
学生・企業双方から報告を受ける。 （学生：チーム報告書の提出） （企業：MTごとの報告） 中間報告前・最終報告前には受入れ担当者と進捗管理 の打合せを行なう。		進捗管理								
PJの進捗確認/PJ完遂に向けた課題の洗い出し/P J間の情報共有のため、受入れ企業・インターン生・大学 関係者を集めた中間報告会を実施。	中間報告会 企画・広報・準備									
PJの成果報告/受入れ企業から学生へのFB/次年度イン ターンシップ事業への提言等のため、受入れ企業・インター ン生・次年度受入れ候補企業・次年度インターン参加希望生・ 大学関係者を集めた最終報告会を実施。	最終報告会 企画・広報・準備									

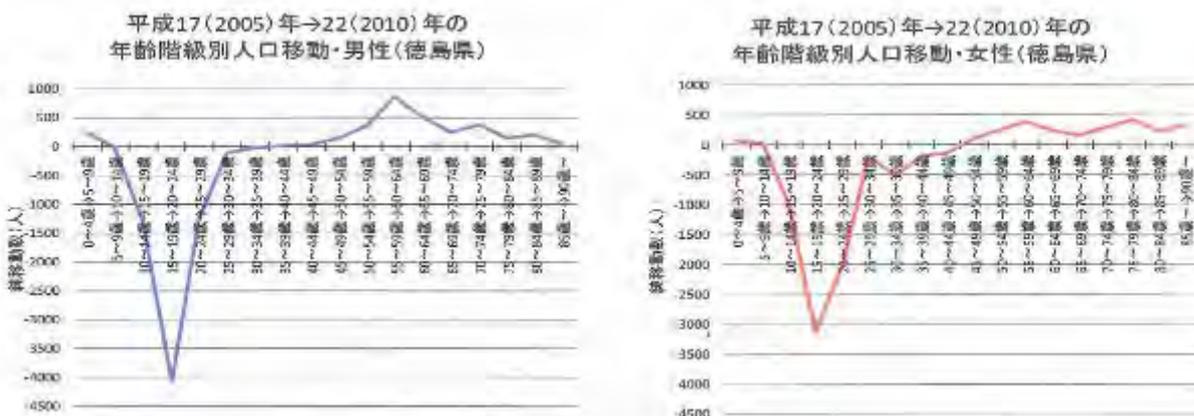
3. 開会挨拶

COCプラス推進本部推進監の玉真之介（たま しんのすけ）教授より、開会の挨拶をいただきました。

玉推進監からは、若者（大学生）の就職時の県外への人口流出という問題（図3）に対し、徳島で活躍されている企業やNPO法人が数多くあるにも関わらず、そのことが充分学生に伝わっていない、学生は徳島のことを知らないままに県外に就職してしまう、という現状が語られました。そんな中、徳島大学が中心となって行っている“実践力養成型インターンシップ”は、全国的に見ても非常に先進的でユニークな取組みとして、注目を集めています。

「まずは徳島のことをよく知ってもらいたい、そして、徳島で活躍していくための専門知識をつけていってもらいたい。インターンシップを通じて、まずは徳島の企業について知ってほしいと思います」と、インターンシップに取り組む学生達に対し、メッセージを送りました。

また、インターンシップの受入れを行っている企業・団体様に対しては、「このような初めての試みに、長期間、継続的に取り組まれている皆様に感謝と敬意を表します。本年度は1年目ということもあり、まだまだ不十分な点もあったかと思いますが、翌年にはより改善・充実させて、より多くの企業・学生に参加してもらえるよう努めてまいります」と、感謝の意を述べさせていただきました。



■ 図3 徳島県の年齢階級別人口移動



■ 開会の挨拶をする玉真之介推進監



■ 会場の様子

4. インターンシップ中間報告会 概要説明

COCプラス推進本部推進コーディネーターの川崎克寛氏より、本報告会の主旨・概要について説明をいただきました。

グローバルが進む昨今、日本の大学生を取り巻く世界状況として、『シンガポールの多くの外資系企業ではインターンシップもワーキングホリデーも、世界ランキング 200 位以内の大学の学生しか受入れていない』という話を例に、世界はもはや日本の大学の学生に目を向けていない、という厳しい現状をお話しました。

では、世界水準の学生と日本の学生は一体何が違うのでしょうか。それは自信があるかないかであり、それはつまり実践を積み重ねた経験があるかないかである、と川崎氏は言います。

海外のインターンシップでは、大学生は1年次から、半年～年単位の長期間に渡ってインターンシップに取り組み、受入れ企業の社員と同じ仕事を行いながら自分に不足しているものと向き合い、それを学ぶ為に自らの意志で大学に足を運ぶ、それが当たり前になっています。

それに対し、日本の大学生は社会との接点が非常に希薄であり、大学で実施されているインターンシップも1日間～5日間程度の職場見学・就業体験に留まっています。学生らは、実践経験も経ず、あまりに社会というものを知らないまま、その荒波の中へと放り出されます。そして自信をなくし、企業に就職しても長くは続かない。近年の新卒の離職率の高さはそのような現状の表れでもあると感じます。

このような背景を踏まえ、川崎氏から本報告会に臨む学生へ、「インターンシップを実践していく中で、山あり谷あり、いろんなことがあったと思います。皆さんの話を聞いていると、ちょうどこの時期、谷底に落ちている、もしくは這い上がりかけているところ、という方が多いようです。これからラストスパート、ミッション達成にしっかりコミットしていただきたいと思います。成果にコミットすることが実践力養成型インターンシップの肝だと思ってください。これからの皆さんの活躍に期待しています。企業の皆さんのお役に立てるように頑張ってください。」と呼びかけました。



■ 中間報告会の主旨・概要を説明する川崎克寛コーディネーター

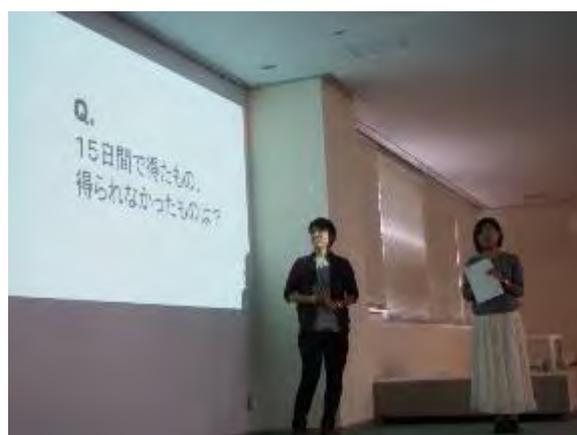
5. プロジェクト進捗発表

各企業・団体ごとに、受入れ担当者とインターン生より、各社 10 分間の進捗報告を行いました。

- ①プロジェクトに対する取組み内容や今後の動きについて
- ②当初期待していた効果・成果に対する評価
- ③プロジェクトに参加して（または受入れを行って）の振り返りと気づき・学びについて

主に上記 3 点に関して、各社受入れ担当者およびインターン生より報告を行いました。

発表順	企業名	ミッション
1	NPO法人マチソラ	うだつマルシェのリピーター率と客単価をUPさせるための提案を行う
3	有限会社榎山農園	榎山ismを反映したHPのグランドデザインを行う
4	一般社団法人 徳島新聞社	①若者に新聞を手にとってもらう仕掛けを考える ②徳島新聞の若者向けページ“ニチヤン”の企画、取材・原稿執筆を行う
5	徳島大学 地域創生センター 上勝学舎	①企業棚田オーナーを獲得するために効果的なツールを作成する (榎原地区) ②古民家の有効的活用・アーカイブ化に向けて地元住民の意向調査を行う (八重地地区)
6	大塚テクノ株式会社	経営戦略に基づいた人材確保のためのツールを作成する
7	株式会社QLiP	①世界のプログラミング教育を調査し、授業カリキュラムを考える ②プログラミング教育の認知拡大のためのイベントを企画運営する
8	株式会社あわわ	30日間で1000人とツナガル。その中で地域の課題を発見・解決する



■ 進捗報告の様子の様子

上勝学舎インターン生（左） 株式会社あわわインターン生と担当者様（右）



■ 会場の様子



■ 別プロジェクトの報告を聞くインターン関係者

6. ワークショップ①

受入れ企業・団体と、インターン生をシャッフルして、実践力養成型インターンシップを実施していく上での課題や壁、それに対する解決策・取組み姿勢などの情報交換を行うためのワークショップを行いました。

企業・団体の受入れ担当者には各テーブルに散らばってもらい、そこに別企業のインターン生が集まる形式を取りました。インターン生には、先の進捗報告を聞いて、今後のプロジェクトの進め方、チームのビルディングなど、自分達のチームが抱える課題を解決し、各々が残りのミッションを完遂するために参考になる受入れ担当者のいるテーブルを選ぶよう伝え、ワークショップに臨んでもらいました。



■ (株)あわわ担当者と別企業のインターン生



■ (株)QLiP 担当者と別企業のインターン生

各テーブルでは、「ミーティングの回数や時間を重ねても、メンバー（学生同士）の意見がバラバラで全く議論がまとまらない、前に進まず困っている」と語るインターン生に対し、自社でのプロジェクトを参考に、「初めに目的（ゴール）を全員でしっかりと共有しておくことが大事。意見がまとまらない時は常に目的に立ち返って考えてみると良いのではないか。」とのアドバイスを送る受入れ担当者の姿もありました。

また、他のプロジェクトに参加したインターン生からも、「自分達は企業様との打合せの4日前には学生でとりまとめた意見や作成したデータをいったん提出し、翌日企業様からフィードバックをもらって、それを修正したうえでミーティングに臨むようにしていた」、「ミーティングのはじめに、今日集まった目的と、議題、ゴールをメンバーで確認してから話し合いをはじめると話が脱線することなく、短時間でもスムーズに進んだ」、などのプロジェクトを通しての体験談が語られました。

Q C D [Quality : 仕事の質、Cost : (人的・時間的・金銭的)コスト、Delivery : 納期・期限] の考え方のもと、限られた時間の中でいかにコストを抑え、ミーティングの質と効果を高めていくか、そのために事前の準備と会議の進め方を工夫した、というインターンシップを通しての1つの学びを、他チームのメンバーへと共有している一場面でした。通常業務との兼務という時間制約のある中で取り組まれている受入れ担当者の方にとっても、いかに学生とのミーティングの時間を効果的に過ごすかというのは1つの課題ではないでしょうか。このような課題は、チームで取り組むプロジェクト型のインターンシップの場合、プロジェクトの内容に関わらず、多くのインターン生と受入れ担当者が直面する壁のうちの1つでもあります。

通常のインターンシップであれば、1度のインターンシップにつき、1社(1人)の事例と課題・学びしか得られませんが、実践力養成型インターンシップは、現在7つの企業・団体で施行されています。他企業のインターン生や受入企業同士の交流を通して、7社の事例、15名の受入れ担当者とインターン生35名分の失敗や課題、学びを共有することで、本インターンシップが企業・学生双方にとって効果の高いものとなればと思います。



■ (有) 榎山農園担当者と別企業のインターン生・担当者



■ (一社) 徳島新聞社担当者と別企業のインターン生

7. ワークショップ②

続いてのワークショップでは、インターン生は自分達が取り組んでいるプロジェクトの担当者があるテーブルに集まり、先のワークショップで各々が他社の受入れ担当者やインターン生から聞いた話をチーム内で共有しました。その上で、改めてプロジェクトのゴールを確認し、ミッション達成のためのプロセス整理、今後の動き方や方針について、チームで共有する時間としました。



■ 今後の進め方について確認しあう各プロジェクトチームの様子
(株)あわわ担当者とインターン生 (左) / 大塚テクノ(株)担当者とインターン生 (右)



■ 今後の進め方について確認しあう各プロジェクトチームの様子
上勝学舎担当者とインターン生 (左) / (株)QLiP 担当者とインターン生 (右)

8. 決意表明

進捗報告、ワークショップを経て、改めて、ミッション完遂に向けて残りの期間をどう取り組んでいくか、インターン生から決意表明を行いました。



■大塚テクノ(株) 納多里奈さん

リーダーとして残りのミッション、皆を引っ張ってより良いものを残せるよう頑張ります！



■大塚テクノ(株) 谷和紀さん

僕たちのチームは進捗的には95%の段階までできています。が、0%でこれから進めていくんだという気持ちで、初心に戻って残りも頑張りたいと思います！



■大塚テクノ(株) 青山晃奈さん

周りのメンバーにすごく支えてもらいました。ミッションも残り少しですが、最後まで頑張ります！



■上勝学舎 篠原諒子さん

自分の為にもなるし、上勝学舎さんの為にもなる行動をしたいと思います！



■上勝学舎 中谷篤人さん

これまで時間をかけてやってきたので、胸を張って誇れるものが最後にできればいいなと思います！



■上勝学舎 久保文乃さん

夏休み行ったヒアリング調査などを活かしていけるよう、これから限られた時間の中でしっかり粘っていきたいです！



■(株)あわわ 小湊湧二郎さん

まだまだこれからなので、攻めの姿勢でガンガンやっていきたいです！頑張ります！



■(NPO) マチトソ 高畑優希さん

これまでの活動ではスケジュール管理で失敗してきたので、残りのタスクは自分達でメ切を設けて、目的に沿った成果物ができるように、最後の作業を進めていきたいです！



■(株)QLiP 元田遥さん

「やる気がある」と口で言うだけじゃダメだと思うので、残り2週間、しっかり行動して、頑張っていきたいです！



■(株)QLiP 井上拓磨さん

自分達のチームは残りあと少しですが、自分のできる100%の力を使って最後まで駆け抜けたと思います！



■(一社) 徳島新聞社 大住歩さん

残り1ヶ月という短い時間の中で、このチームがどれだけできるか、自分の力をどれだけ発揮できるかという所にかかっていると思うので、しっかり自覚を持って取り組んでいきたいです！



■(一社) 徳島新聞社 松田春菜さん

今すごく楽しいので、このまま楽しんで、私達の使命である“若者が手に取る新聞づくり”に向けて頑張ります！

インターン生に続き、各企業の受入れ担当者の皆様からもコメントを頂きました。



■(株)QLiP 江本大輔様

他の企業担当者、学生からの話を聞いてとても勉強になりました。今回のインターンシップは受入れ側としても大変で、負荷もありましたが、それくらいじゃないと新しいものは生まれないなということを感じました。インターン生には思い切ってやってほしいと思います。



■上勝学舎 澤田俊明様

インターン生の皆さん、上勝に入ってヒアリングを進めていく中で、色んな課題に直面したことと思います。色んな人の話を聞いた上で、自分達の感覚を大事にしてほしいと思います。残りも頑張りましょう！



■(株)あわわ 岩佐乃介様

今回インターンを受け入れる中で、社内での課題というも出てきました。他の企業さんの報告を聞く中で、こういうやり方があるんだ、ここができてないなという気づきもたくさんありました。30日間を通してインターン生も成長するでしょうし、僕たち“あわわ”としても何か成長できたというものをつくり出していきたいと思います。



■大塚テクノ(株) 千葉雄介様

私共のPJは9割方終了しております。今回、我々が求める人材に対する効果的なPRを考えてもらいましたが、先ほど、(決意表明を)誰からするかというシーンで、一番に手を挙げてくれたのはうちの学生でした。インターンを通して、企業が求める人材というものを体現してくれているなと感じました。ありがとうございました。



■(有)榎山農園 榎山直樹様

今日の報告会は勉強になることばかりでした。せっかく一生懸命取り組んでくださる学生が8名もいるので、僕自身も残り、11月いっぱい、命懸けで取り組んでいきたいと決意いたしました。改めて、よろしくお願いたします。

9. まとめ・閉会挨拶

COCプラス推進本部推進コーディネーターの川崎克寛氏より、本報告会のまとめおよび閉会の挨拶をいただきました。

▼コメント▼

今回のインターンシップへの取組みは徳島大学としても初めての試みであり、全国的に見ても稀な取り組みです。学生の方にも企業の方にも、戸惑わせることが多かったのではないかと思います。

このインターンシップはミッションの達成を目的にしていますので、そこを共通認識として持っていて、残りを駆け抜けて欲しいと思います。企業の皆様にはプロジェクトを組むはじめの段階からお伝えしていますが、学生の成長は一切考えて頂かなくて結構です。学生の皆さんも、「自分たちの成長のために」ということより、まずはミッションの達成を考えてください。そこに向かって歩んでいけば、結果として、自然と成長しています。

僕たちも精一杯サポートしていきますので、残りの期間も共に駆け抜けていきましょう。

10-1. アンケート (項目)

COC プラス アンケートにご協力下さい

本日はありがとうございました。今後このインターンシップをよりよくしていくため、また直近では皆様のミッション完遂に向けて、私どもの至らぬ点などをご指摘いただければ幸いです。なおこのアンケートの集計結果については後日皆様にお伝えさせていただきます。

- ① ご所属について教えてください。

ご所属	インターン生 ・ その他学生 ・ 受入企業/団体さま ・ その他企業/団体さま
お役職	

- ② これまでのインターンシップ事業の中での感想やお気づきの点などございましたらお教え下さい。

	お気づきの点・ご指摘など
プロジェクト組成時	
インターンシップフェア	
事前研修・事前講習時	
受入開始前後	
インターン施行時（現在）	

- ③ 今後のサポート等についてご要望等ございましたら教えてください

--

- ④ 本日の実践力養成型インターンシップ中間報告会の感想について教えてください

--

- ⑤ その他、お気づきの点やご感想などございましたら教えてください

--

ありがとうございました。スタッフ一同今後も頑張っております。今後ともよろしくご指導ご鞭撻のほどお願い申し上げます。

10-2. アンケート（結果）

回答者属性	回答者数
インターン受入れ企業・団体	8
インターン生	11
その他大学・企業関係者	4

▼インターン受入れ企業・団体（有効回答数：8）

Q1：これまでのインターンシップ事業の中での感想や気づきの点などございましたら教えてください。

①プロジェクト組成時

関わっていなかったので不明
受け入れ側の課題設定やスケジュールの組み方などがあまりにもずさんでした。
インターン生の能力と目標設定は分からないままプロジェクト組成しはじめました。もっと互い話し合っ意見を出し合った上で目標を設定した方がいいと思いました。
学生とのマッチング方法について。もう少し母数が欲しい。
「1000人とツナガル」プロジェクト自体はわねながら良かったが、もっともっと中身を詰めるべきだと反省です。

②インターンシップフェア時

参加学生をもう少し増やせたかもしれないと思います。（見に来るだけ）
インターンに関係のない学生も企業紹介に参加できると良かった。
他企業様とも交流ができたことが嬉しかったです。
次回があればこのようにしたいと今後を考えさせてくれるフェアでした。

③事前研修・事前講習時

ミッションに取り組むまでに・・・業界や仕事内容を理解してもらわなければならない。
非常に円滑に進んだと思います。
川崎さん・宮本さんのおかげで順調にいった。
課題の明確化と共有をしっかりとすべきだった。
事前研修は良かったと思います。
学生さんへの手厚い研修に驚きましたが、私達企業側にまで講習をしていただきありがとうございます。

④受入れ開始前後

受入れ側として具体的な取り組み内容やスケジュールを詳細に決めておくべきだった。受入れ人数（学生数）の適数を見極める必要があったかもしれない。
非常に円滑に進んだと思います。
学生のサポートは極力少ないほうがいいのでは、と思いましたが、色々な企業の考え方があったと今回の報告会で知りました。

⑤インターン施行時（現在）

学生と連絡が取れなくなったときの大学側との連携をさらに取っていく必要がある。
テーマを進めると同時に、今後も継続的に関わる学生が出てきてくれると嬉しい。専念している人でも困難なことをやってもらっているため、進め方に悩む点もある。
打合せ等大学で行なうときに移動だけで2時間ほどかかる。打合せの際に学生が全員集まる予定だったにも関わらず、集まらないのは残念。
受け入れ側の体制もきちんと整えないとスケジュールが組みづらい。
定期的集めて進捗を確認することは大事。マイルストーンの設定は効果的。
若手社員がインターン生さんを本当に後輩だと思っていることが嬉しい。
こちらの課題が多く見つけ、いい経験となりました。

Q2：今後のサポート等についてご要望ございましたら教えてください。

学生と連絡が取れなくなった際のサポート。
実働時間の把握
何もありません！いつもありがとうございます。よいご縁に感謝です。
現時点では特に問題ありません。

Q3：本日の実践力養成型インターンシップ中間報告会の感想について教えてください。

他受入れ企業の受入れ態勢が参考になりました。
各企業さんの状況を知ることができてよかった。
まわりのインターンプログラムがどういう風に進んでいるのか大変参考になった。今後それを取り入れて活かしていきたい。
各チームの報告を聞くことができてとても参考になりました。インターン生とのコミュニケーションは深くて良かったです。
自社の足りなかった点が発見できてよかったです。ありがとうございます。
自社のインターン生だけではなく、他のインターン生の意見も聞けて参考になった。また、自社のインターン生のモチベーションが下がっていないか気になっていたが、この機会に話ができてよかった。

Q4：その他気づきの点や感想などございましたら教えてください。

実働時間の把握。
スタッフの皆様のおかげでゴールが見えてきました。ありがとうございました。
地の拠点・知の拠点、一緒に作ります！

▼インターン生（有効回答数：11）

Q1：これまでのインターンシップ事業の中でのご感想や気づきの点などございましたら教えてください。

①プロジェクト組成時

「短期インターンシップ」の授業での広報はあまりピンと来なかった（全体として）
興味関心だけで参加したが、こんなに勉強になるとは思わなかった。

②インターンシップフェア時

授業のない時間帯に行ってくださいとありがたかったです。
広報・フェアの存在を知らない友人が多くいた。
最初に提示する期間の明確化
様々な企業さんのお話が聞け参考になった。
企業さんとのマッチングのために選択の段階で企業さんとお話できたのはよかったと思う。授業前後の時間だったので、あまりお話をすることができなかったのが残念でした。

③事前研修・事前講習時

企業へ行く前の心構えや考え方が学べてよかったです。
研修がないままインターンシップに行っていたら理解度も今より低かっただろうと思うので、研修があつてよかったです。
受入れの前に思考方法やマナー・心構えの部分を教えてもらったのがよかった。
インターンシップ生同士でミッションについて話す時間がもつとあればよかった。
研修があつたことでインターンに行く心構えができてよかったです。
いろんな視点を得ることができ、よい学びになっている。企業さんからの講習はほとんどの得ず困惑することの原因だったかと思います。企業さんがどうしたいのかということをお願いして時間をしっかりとって頂きたかったです。（特に企業さん側のためにも）

④受入れ開始前後

右往左往して何をどうすれば…と萎縮していたのに、後押しをしてくれたりアドバイスをしてくれてよかった。
団体側にミッションの背景とか話を聞く時間をじっくり取りたうよかった。
実際の業務と予測していた仕事が異なりとどまった。
どんどん道が変わっていつ何をしているのか分からなくなった。企業さんも一緒に成長しているのかとも思いますが、2週間ほど企業さんがいない状態もあつたりと不安でした。

⑤インターン施行時（現在）

途中で来なくなる学生の対処についてもう少し明確な規定が欲しいと思いました。来るか来ないかわからない仲間についてどうしたらいいのだろうと思いました。
サポートする時に、あまり具体的な提案（例示）をせずにアドバイスを欲しかった。どうしてもアドバイスにつられてしまって、学生のアイデアなのか…？となってしまうことがある。
インターンシップを一通り終えて、団体側とCOO+スタッフなど色々な人から意見を聞きたい。
最終的な細かいミッションが当初と変化していた。⇒ミッション設定の意味は？
PPTとパンフができた（残すは修正のみ）
もつと自分からCOOセンターに行ってサポートを自分から受ければよかったなど感じています。
業務に慣れてくると楽しめるようになり、学びも多くなった。
研修レポートを写メで全員毎回提出することの必要性があまり感じられません。チーム報告書も同様です。
企業さんのことを信頼はできなくなっています。スキルや職業観は持てるようになってるので自分のためにはなっていると思います。

Q2：今後のサポート等についてご要望等ございましたら教えてください。

いつも力になっていただきありがとうございます。
相談しに来ます。
COO+の方々には感謝しかありません。今後もよろしくお願いします。

Q3：本日の実践力養成型インターンシップ中間報告会の感想について教えてください。

できれば授業時間外がよかったです。
他のインターンシップの状況が全く分かっていなかったの、今日知ることができてよかったです。
2社くらい回って話聞きたかった。気になった企業団体のところに行つたけど、その企業団体のインターンの話というより自分の行ったインターンシップ先の話がメインになったので残念。
他の企業さんとお話できたのは非常に良かったです。
他のインターン生の話、報告を聞くのは良かった。スケジュール管理の方法など参考になるところがあった。
色々な企業の取組みを知ることができた。人前で発表している色々な人を見ることができた。
他企業さんの動きやお話を聞いて勉強になりました。自分達の振り返りかつ今後についても話せてよかったです。
他団体1つだけではなく、多数とお話できたら良かったと思います。
どのインターンも実践型の大変さや成長があることが話を聞いて感じました。

Q4：その他お気づきの点やご感想などがございましたら教えてください。

インターンは思っていた以上に大変で心が折れそうときもあつたが、いい経験になりました。
報告会でよかったです。

▼その他大学・企業関係者（有効回答数：4）

Q1：これまでのインターンシップ事業の中での感想や気づきの点などございましたら教えてください。

①プロジェクト組成時

※回答なし

②インターンシップフェア時

うまく学生がまわっていたなあと思いました。

学生のモチベーションアップに効果的だと感じました。もう少しプロジェクトの和を増やしても面白いと思います。

③事前研修・事前講習時

言葉遣い、ビジネスマナーなど教えたつもりですが、なかなか伝わっていないと感じました。

④受入れ開始前後

※回答なし

⑤インターン施行時（現在）

※回答なし

Q2：今後のサポート等についてご要望等ございましたら教えてください。

初回なので今年は大変だと思います。手続きの標準化をして継続体制を築いてください。

Q3：本日の実践力養成型インターンシップ中間報告会の感想について教えてください。

最後のあわわ様は思わなかったのですが、そのほかの企業様と学生様との距離感が考えていたより離れていたです。ほぼ毎日のように企業様と学生様が交わっていると想像していました。

学生が自分達でパワポを作り、発表する姿がとてもしっかりしていて、みんなインターンシップで成長しているんだなあということが分かりました。

中間発表はやるべきだなと思います。次年度も続けてください。

Q4：その他お気づきの点やご感想などございましたら教えてください。

当社はまだ企業未成熟の為、受入れは難しいかなと考えていましたが、ハードルは低くなったように感じました。ただ、学生様のカリキュラムの一環として受け入れるには未だ企業体力不足かとも考えます。

最終報告会も楽しみにしています！

インターンに参加されている企業ごとによって悩みが違っているように感じた。企業の規模や質によってサポートの仕方を考えるべきかもしれない。

次年度の周知方法、学生の勧誘方法など相談させてください。